

異性から無理やり性交された経験のある人
成人女性の15人に1人



15

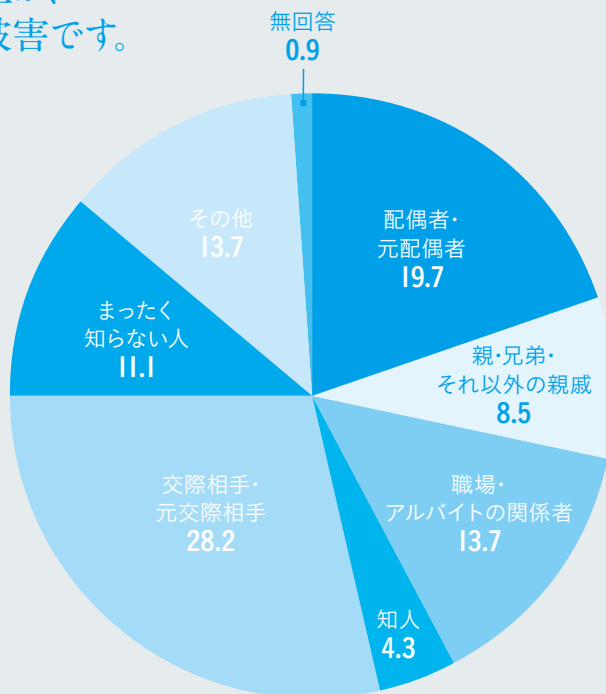
20歳以上の女性に対して行われた内閣府の調査によると
異性から無理やり性交された経験（レイプ被害）のある人は
6.5%で15人に一人の割合。

日本の成人女性に換算すると350万人ほど。

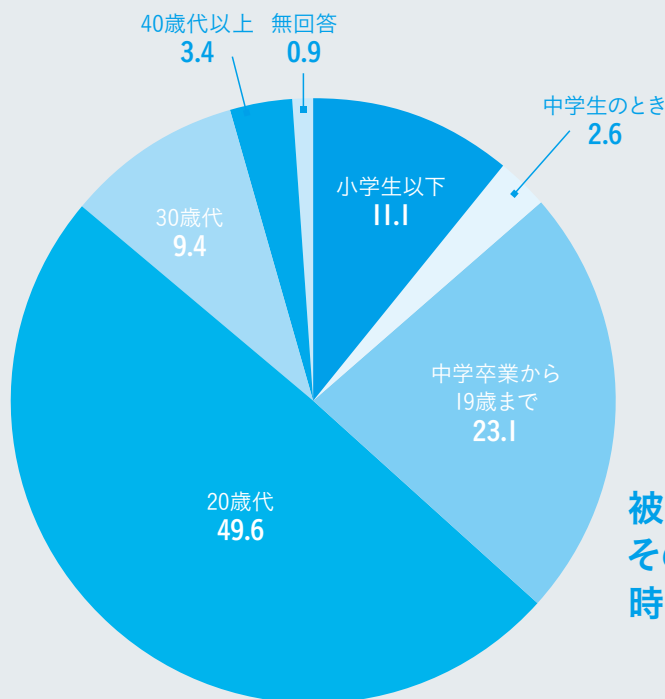
そして、そのうち75%以上が、
身近な知り合いからの被害です。

そのうち75%以上が
身近な知り合いからの被害です。

Q. 加害者との 関係について



Q. 被害にあった 時期



被害にあった時期については、
そのうち4割近くが未成年の
時期に被害にあっています。

こんなに大勢の被害者がいることを、
私たちは知りません。
それは、なぜ？

このケースどう考える？

職場の飲み会に参加し、飲酒。
お酒を飲まなかった先輩から
「遅いから車で送るよ」と言われ、
少し迷ったけど車に乗った。
気づくと山奥で車を止められ、
無理やりセックスさせられた。



スキがあつた？

仕方ないこと？

なぜ抵抗しなかったの？

山奥で、車から降りて
一人で帰るの怖くない？

相手との関係を悪くしたくなくて

断れずに車に乗っただけで、

どうして車に乗ったの？

セックスしたいなんて全然思ってなかったけど、

自分も悪かったかもって思うし、

相談しても責められたり、

辛さを理解してもらえなかったりすることが怖くて、

誰にも言えなくなる。

誰も知らない、「無理やりセックスさせられた」ことが

無かったことになってしまう。

人を信じられなくなって、車に乗るのが怖くなって、

生きることが嫌になるかもしれない。

どうして被害者だけが責められるの？

相手が、仕事でお世話になっている

先輩でも？

あも、
あなたは相手の善意を、
きつぱり断れる？
辛さを

セツ
誰も知らない、
最初から相手が
人を信じられなくて、
車に乗った？

車に乗った？

本当にそれでいいの？

異性から無理やりに性交された被害の相談の有無

相談した 31.6%
相談しなかった 67.5%
無回答 0.9%

被害の相談先（複数回答）

友人・知人に相談した 22.2%
家族や親戚に相談した 5.1%
警察に連絡・相談した 4.3%
医療関係者（医師・看護師など）に相談した 1.7%
その他 1.7%
どこ（だれ）にも相談しなかった 67.5%

どこ（だれ）にも相談しなかった理由

恥ずかしくてだれにも言えなかったから 38.0%
自分さえがまんすれば、
なんとかこのままやっていけると思ったから 30.4%
そのことについて思い出したくなかったから 27.8%
相談してもむだだと思ったから 20.3%
相談するほどのことではないと思ったから 16.5%
相手の行為は愛情だと思ったから 12.7%
他人に知られると、これまで通りのつき合い
（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから 8.9%
相手の仕返しが怖かったから
（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど） 7.6%
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから 6.3%
世間体が悪いと思ったから 6.3%
他人を巻き込みたくなかったから 6.3%
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから 5.1%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから 2.5%
その他 10.1%

被害について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか？

もし被害者が、
自分だったら
家族だったら
友人だったら
恋人だったら
そして見知らぬ
誰かでも

こんなとき、
どうする？

できることから、やってみよう

性暴力関連の
ニュースを注意深く
チェックする

ネットや書籍で
データを
調べてみる



知る 実態を

被害者の
心理について
学ぶ

被害者の
手記などを
読む

「あなたは悪くない」と
伝える

そばにいる

話を聴いて、
一緒に考える

弁護士や
カウンセリング機関を
調べて、
情報をシェアする

被害者に よりそう

いろんな機関に
つながれるよう
サポートする

この問題について
勉強会をひらく

つながる

Facebookで、
性暴力を防ぐ
活動をしている
団体に「いいね」する

性暴力を
なくそうとする議員に
投票する

デモに
参加する

ボランティアに
参加する

アクションする

この情報を
シェアする

絵や音楽で
表現する

性暴力に関する
セミナーに参加して
勉強する

性暴力に
反対する団体に
寄付する

メッセージを
発信する

友人、恋人、
家族と
この問題について
話してみる

ブログ・SNSで
発信する

女性の心身を深く傷つける
性暴力被害にあつても、
自分に「落ち度」があつたと
責められたりするんじゃないか、
分かつてもらえないんじゃないかと思つて、
誰にも相談できず、
抱え込む人が7割近くもいます。
でも、性暴力の責任は加害者にあります。
自分の望まない性行為はすべて、
「性暴力」なのです。





15人に1人がレイプ被害にあう社会。
性暴力は他人事ではなく

ジブングトであり、「社会問題」なのです。

自分や、周りの人が被害に遭うかもしれない。

この問題に取り組むことは、

自分や大切な人を守ることもあります。

ひとりでも多くの人に性暴力の実態を知ってほしい。
この問題について一緒に考える仲間が増えることで、
被害者が孤立する社会を変えたい。
そんな思いから、この作品を作りました。
これをきっかけに、読んだ人の周りで議論がうまれ、
私たちひとりひとりが性暴力について考え、
私もあなたもあなたの大切な人も、
性暴力に怯えずに、自由に安心して
日々暮らせる日本になりますように。

発行 「性暴力を許さない女の会」(設立1988年)

私たちは性暴力を
「本人の望まない、あらゆる性体験、性的働きかけ、
性的おびやかし、性的言動」と考え、
性暴力をなくすために行動しています。

活動内容

- 電話相談(毎週火曜19-21時 TEL. 06-6322-2313)
 - 公開講座(2.5.8.11月開催)
 - 機関紙「ファイトバック」の発行(1.4.7.10月発行)
- <http://no-seiboryoku.jimdo.com/>

ジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金助成事業